

北海道における外国人ドライブ観光の2019年分析結果の概要① 国土交通省

- 国土交通省北海道開発局は、2018年4月に協定を締結した株式会社ナビタイムジャパンが運営するスマートフォン用アプリケーション「Drive Hokkaido!」により取得したGPSデータを活用して外国人観光客の移動経路の把握等を実施。2017年9月よりGPSデータを取得しており、**2019年は2,166人のデータを取得し、初めて2018年との通年での比較が可能。**
- この分析結果を北海道ドライブ観光促進プラットフォーム等を通じて、地方公共団体や観光関係団体等の関係機関と共有し、観光施策やプロモーション活動等を推進。

主な分析結果

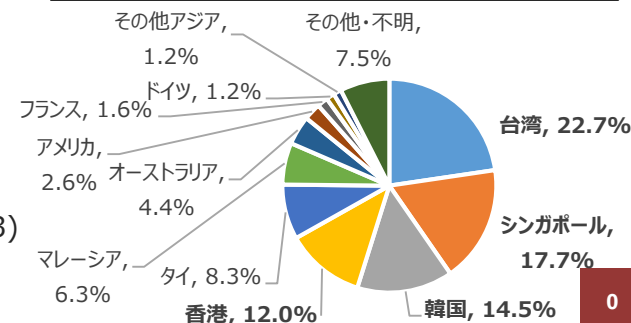
- **外国人ドライブ観光客は北海道内各地を広域に周遊し、来道外国人旅行者全体に比べ、より地方部（道央圏以外）を訪れ、より長い期間滞在しており、ドライブ観光の促進は、来道外国人旅行者の地方部への誘客に有効。**
 - ・地方部宿泊割合：外国人ドライブ観光客は今回調査47.1%（※1）となり、他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体は27.6%（※2）
 - ・平均旅行日数：外国人ドライブ観光客は今回調査5.7日（※1）となり、他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体は3.7日（※2）。
 - ※1 今回実施調査（2019年1-12月） ※2 北海道「北海道観光入込客数調査報告書」より計算（2018年度）
- レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域を含めて、**北海道内各地を広域に周遊。2018年と比べ、2019年は宗谷地方や留萌地方、日高地方などの沿岸部を周遊している傾向が見られた。**
- **外国人レンタカー貸渡台数上位6国・地域はいずれも北海道内各地を広く訪問。**
 - ・2019年の北海道における外国人レンタカー貸渡台数上位6国・地域：台湾、韓国、香港、タイ、シンガポール、マレーシア（北海道地区レンタカー協会連合会提供資料）
- **外国人ドライブ観光客の目的地は、雪、花など季節に応じて変化。**
 - ・1-3月期は倶知安町や二世コ町を含む後志地域、4-6月はオホーツク圏、7-9月は美瑛・富良野エリアを含む道北圏、10-12月は道南圏の割合がそれぞれ高い。
- **リピーターの方が地方部を訪れる割合は高くなるが、来道経験10回以上では道央圏（札幌・後志地方）が高い。**
 - ・地方部宿泊割合 来道経験なし・1回：44.7% 来道回数2-5回：55.1% 来道回数6-9回：53.0% 来道回数10回以上：38.4%

アプリユーザーの状況

- **2,166人のデータを取得。**北海道全体の外国人レンタカー貸渡台数（103,050台）の**2.1%**に相当。
- 国・地域別では、**台湾、シンガポール、韓国、香港の順に多く、上位6国・地域のアジアからの旅客の割合は、全体の81.5%を占める**（図1）
- アプリユーザーに占める**リピーターの割合は32.4%**であり、来道外国人旅行者全体28.2%（※3）よりも高く、**外国人ドライブ観光客はリピーターが多いと推測される。**

※3 北海道観光振興機構「平成30年度北海道来訪者満足度調査」

図1.アプリユーザーの国・地域別構成割合



周遊・滞在の概況

外国人ドライブ観光客は、北海道内各地を広域に周遊。

- レンタカー以外の交通手段では訪問が難しい地域を含めて、北海道内各地を広域に周遊。(図2)
- 2018年と2019年の測位者数・滞在者数の相対的な分散の状況を比較すると、2019年は宗谷地方や留萌地方の海側で測位者数・滞在者数ともに多く、日高地方・十勝地方の海側では測位者数が多い傾向が見られる。(図2,3,4,5)

図2.GPSデータ測位者数 (10kmメッシュ)

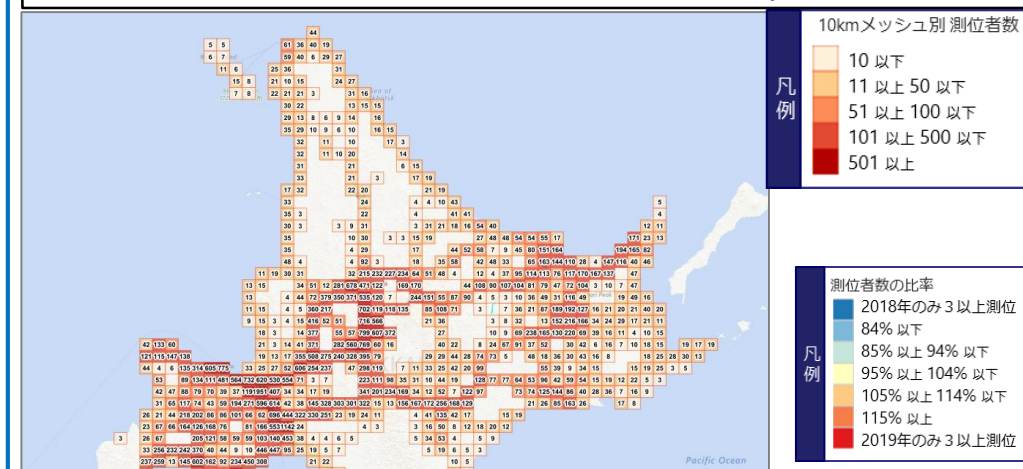


図4.GPSデータ滞在者数 (10kmメッシュ)

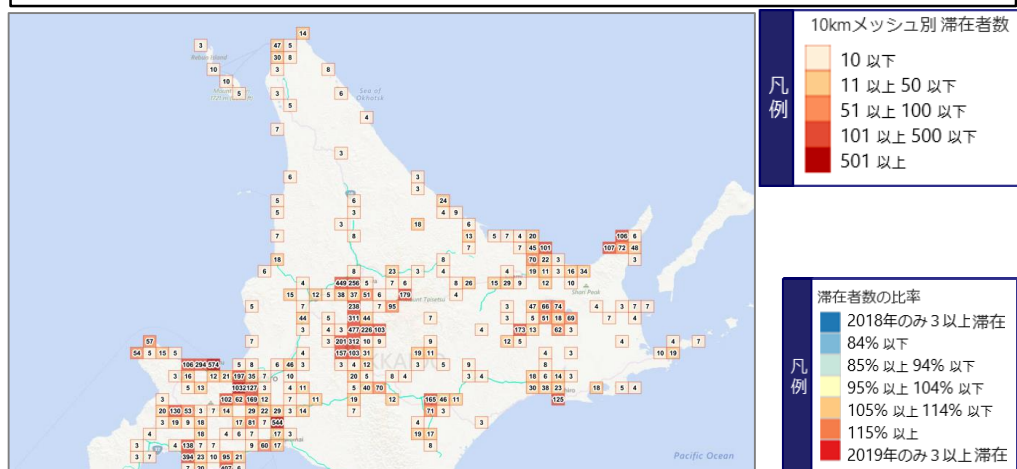


図3.測位状況の変化 (2018年→2019年)

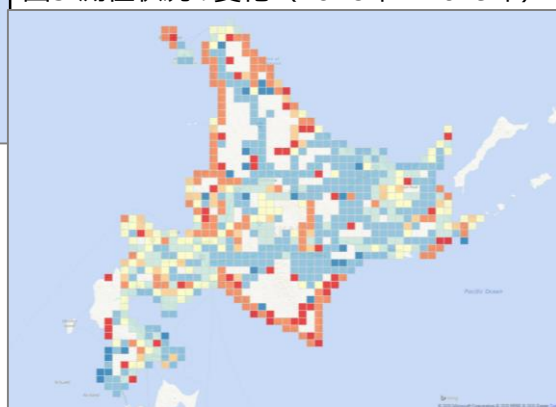
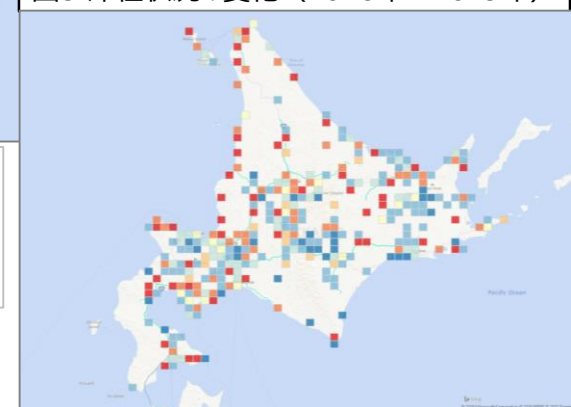


図5.滞在状況の変化 (2018年→2019年)



■ 測位者数とは
特定のメッシュ内に存在していた来道外国人旅行者のGPSデータ測位者数をカウント。

N≥3を表示

■ 滞在者数とは
取得した来道外国人旅行者のGPSデータのうち、同一1kmメッシュ内に30分以上連続で滞在した人を「滞在」と定義しカウント。

N≥3を表示

図3はその年の測位者数の合計に占める各メッシュの測位者数の割合の変化を表した図

$$\text{測位状況の変化 (図3)} = \frac{\text{2019年の各メッシュの測位者数}}{\text{2019年の測位者数の合計}} \div \frac{\text{2018年の各メッシュの測位者数}}{\text{2018年の測位者数の合計}}$$

図5はその年の滞在者数の合計に占める各メッシュの滞在者数の割合の変化を表した図

$$\text{滞在状況の変化 (図5)} = \frac{\text{2019年の各メッシュの滞在者数}}{\text{2019年の滞在者数の合計}} \div \frac{\text{2018年の各メッシュの滞在者数}}{\text{2018年の滞在者数の合計}}$$

※ 図3及び図5は滞在が把握されたユーザー等の測位・滞在データのみで整理 (2019年: 2,166人、2018年: 1,771人)

周遊・滞在の実態

■外国人ドライブ観光客は、来道外国人旅行者全体に比べ、より地方部を訪れ、より長い期間滞在。

【地方部への誘導（圏域別宿泊割合）】

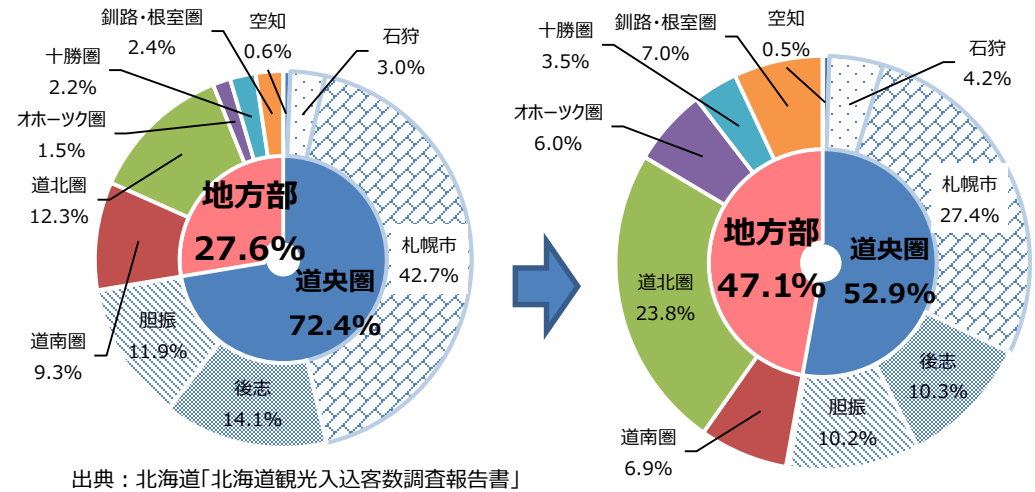
- 外国人ドライブ観光客の宿泊地は、地方部（道央圏以外）が**47.1%**。（図6）
- これは、他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体**27.6%**（2018年度:北海道庁調査）よりも高い。なお、これは2017.9-11の外国人ドライブ観光客42.5%（2017年9-11月）よりも高く、2018年の外国人ドライブ観光客47.4%（2018年）とほぼ同様の結果となっている。（図8）

■宿泊とは

本分析では、21時～翌3時の間GPSデータが測位された最後の市町村を「宿泊地」とみなしている。

図6.圏域別宿泊割合

【参考】来道外国人旅行者全体(2018年度) 外国人ドライブ観光客(GPSデータ:2019年)



【旅行日数】

- 外国人ドライブ観光客の平均旅行日数は**5.7日**（昨年6.2日）。（図7）
- 他の移動手段も含む来道外国人旅行者全体**3.7日**（北海道庁調査 2018年度より計算）よりも長い結果となった。

図7.平均旅行日数

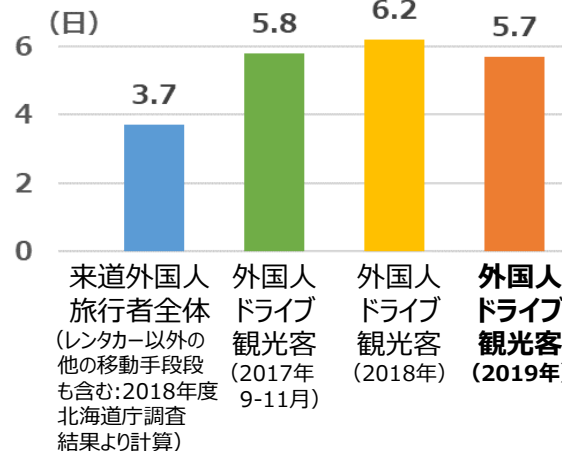
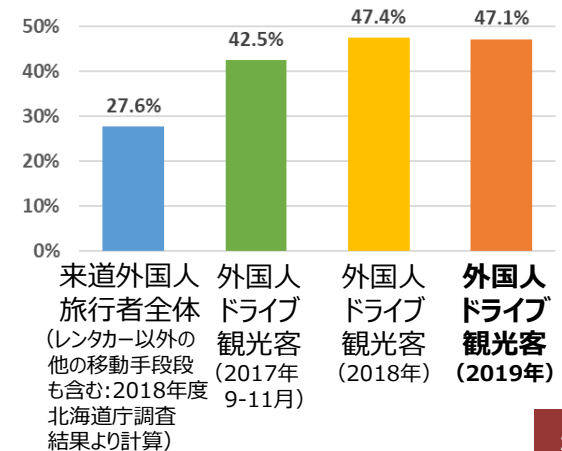


図8.地方部(道央圏以外)への宿泊割合



※2018年に比べ、外国人ドライブ観光客の平均旅行日数が減少している理由としては、旅行日数が比較的短い韓国のアプリ利用者の増加が考えられる。（図11,12）
 アプリユーザーに占める韓国からの旅行者の割合：
 2018年 4.8% → 2019年 14.5%

周遊・滞在の実態

■外国人ドライブ観光客の目的地は、雪、花など季節に応じて変化。

【四半期別の状況】

- 大きな傾向は2018年と同様。地方部への宿泊割合が最も高くなるのは**4-6月期で50.6%**。(2018年：48.8%) (図9)
- 2018年と同様に**1-3月期**は倶知安町やニセコ町等を含む**後志地域**、**4-6月期**は芝桜等で有名な**オホーツク圏**、**7-9月期**は美瑛・富良野エリアを含む**道北圏**の割合が高い。道南圏は2018年は4-6月期の割合が8.7%と最も高かったが、**2019年は10-12月期が11.1%** (2018年：8.3%) で最も高くなっている。
- 市町村別の滞在率においても、**四半期により滞在率が大きく変化する市町村があり、季節に応じて外国人ドライブ観光客の目的地が変化していることが伺える。**(表1)
- 函館市や斜里町、東川町等目的地として訪問される地域に加え、釧路市や帯広市も年間を通じ滞在率が高く、周遊の拠点となっていることが伺える。

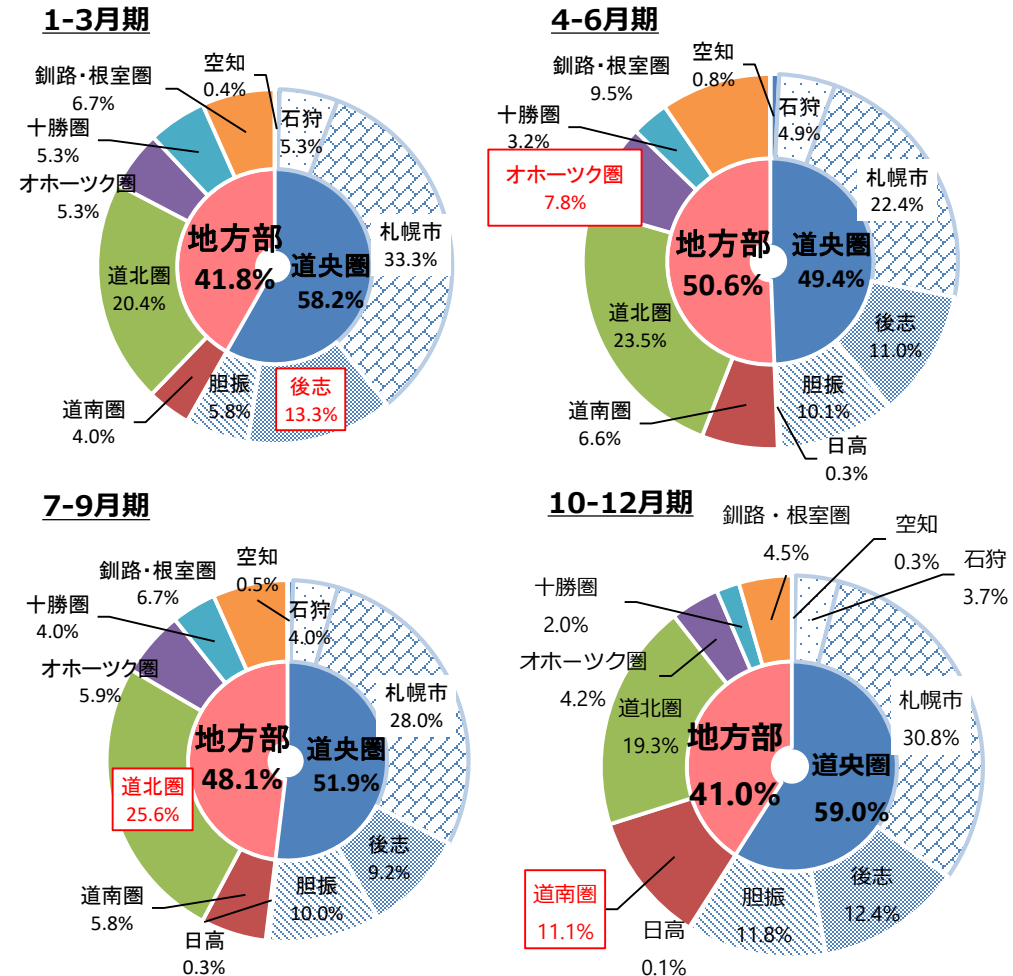
表1.四半期別市町村別滞在率上位10

順	1月-3月期		4月-6月期		7月-9月期		10月-12月期	
	市町村	滞在率	市町村	滞在率	市町村	滞在率	市町村	滞在率
1	旭川市	85.7%	稚内市	88.2%	函館市	86.5%	釧路市	92.5%
2	札幌市	84.0%	根室市	83.3%	稚内市	86.3%	札幌市	86.2%
3	釧路市	81.3%	帯広市	81.6%	帯広市	85.2%	斜里町	85.4%
4	網走市	75.0%	函館市	81.1%	礼文町	83.3%	小樽市	84.9%
5	ニセコ町	75.0%	斜里町	80.6%	札幌市	80.8%	函館市	83.1%
6	倶知安町	72.7%	札幌市	78.7%	斜里町	79.0%	帯広市	80.6%
7	小樽市	66.7%	釧路市	77.4%	小樽市	78.2%	上川町	78.4%
8	登別市	60.0%	小樽市	76.6%	釧路市	77.7%	弟子屈町	76.9%
9	函館市	57.1%	弟子屈町	72.6%	利尻富士町	75.0%	東川町	73.0%
10	弟子屈町	55.6%	東川町	68.8%	東川町	70.7%	登別市	68.8%

※測位者5以下を除く

※黄色ハッチングは圏域別宿泊割合が特徴的であった圏域の市町村

図9.四半期別 圏域別宿泊割合



■滞在率とは

市町村別の滞在者数を当該市町村の測位者数で除した値。当該市町村を素通りすることなく、立ち寄った比率を示す。測位者数が少ない市町村であっても、高い数値となる点に留意が必要。

周遊・滞在の実態

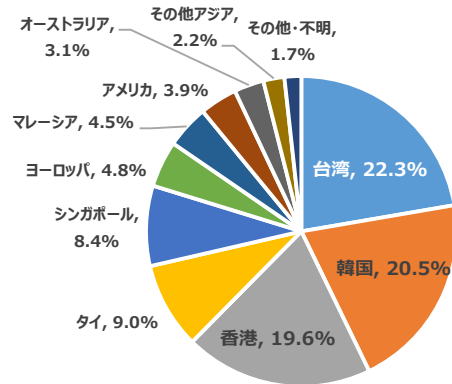
■ **外国人レンタカー貸渡台数上位6国・地域は**
いずれも北海道各地を広く訪問。

【国・地域別の滞在状況①】

○ 北海道における外国人レンタカー貸渡台数上位6国・地域からのドライブ観光客は、**国・地域を問わず、道内各地を広く訪れている。** (図10,11)

図11.外国人レンタカー貸渡台数の国・地域別割合 (2019年)

2019年1月～12月：103,050台 (初めて10万台に到達)

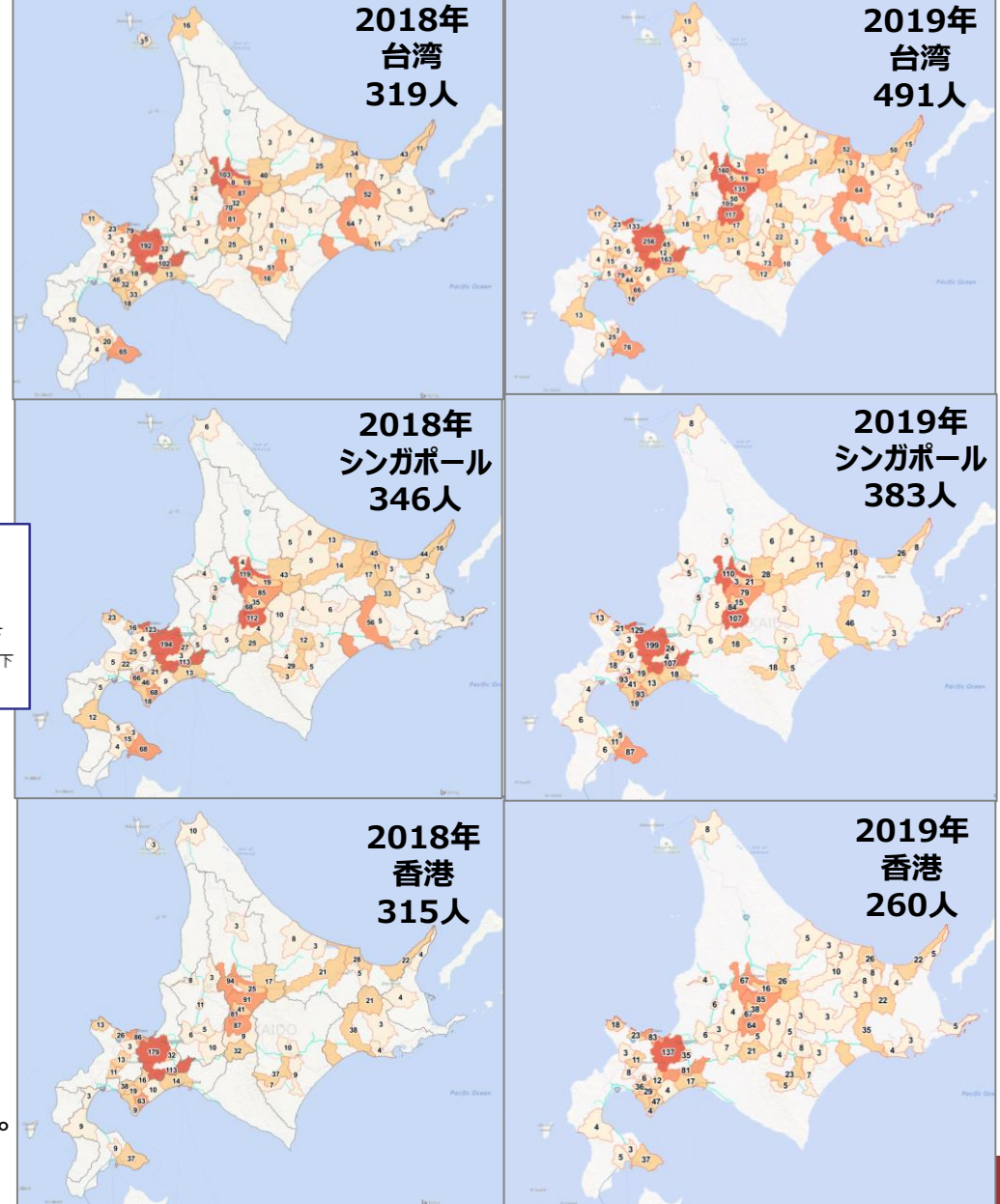


北海道地区レンタカー協会連合会提供資料

○ **台湾、シンガポール、香港、タイ及びマレーシアは、国・地域によって滞在の傾向に違いがあるものの、2018年と2019年で同様の傾向が確認された。** (図10)

○ **台湾、シンガポール及び香港は、道内各地を広く訪問している。**

図10.国・地域別市町村別滞在者数分布図 (2018年・2019年)



周遊・滞在の実態

【国・地域別の滞在状況②】

○ **韓国**は、2018年は札幌市周辺及び美瑛・富良野エリア周辺で滞在が多く確認されていたが、**2019年は道北、道南、道東など道内各地で滞在が確認された。**(図10)

※2018年と2019年の把握できた韓国からの滞在者数の違いがあること及び2018年8月にアプリに韓国語が追加されていることに留意が必要。

○ **タイ及びマレーシア**は、札幌市周辺、美瑛・富良野エリア周辺及び函館市周辺で滞在が多く確認されている。(図10)

○外国人ドライブ観光客の国・地域別の平均旅行日数では、**台湾5.7日、シンガポール6.2日、香港5.8日、マレーシア5.8日**と長く、**タイは4.8日、韓国は4.3日**と短い。この傾向は、2018年と概ね同様となっている。(図12)

図12.国・地域別平均旅行日数 (外国人ドライブ観光客)

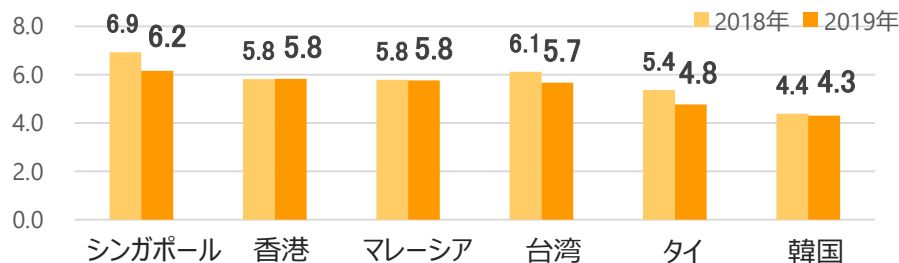
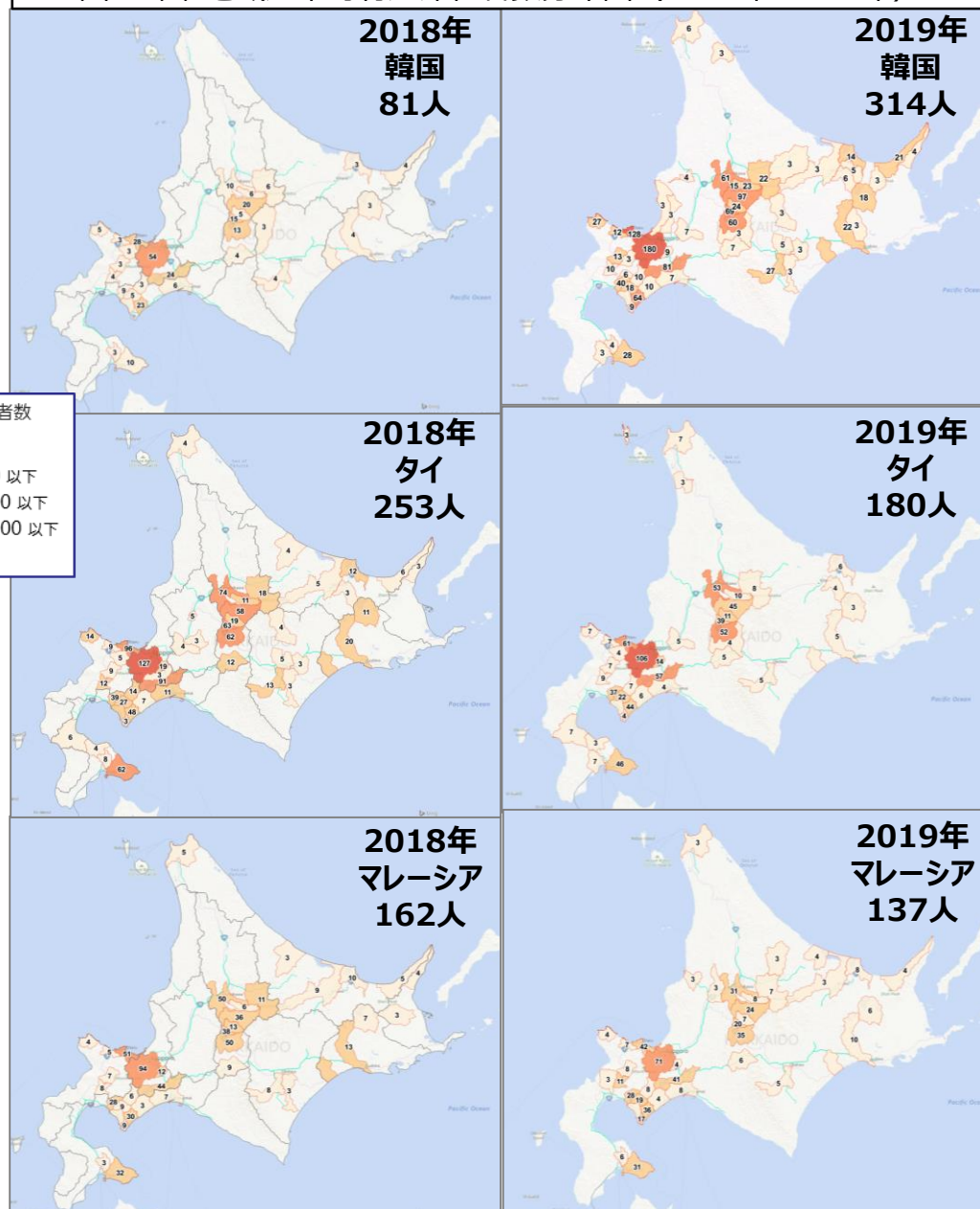
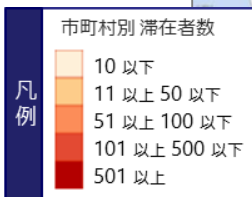


図10.国・地域別市町村別滞在者数分布図 (2018年・2019年)



周遊・滞在の実態

■リピーターの方が地方部を訪れる割合は高くなるが、来道経験10回以上では道央圏（札幌市と後志地方）が再び高くなる。

【来道回数別 圏域別宿泊割合】

- 来道回数別の地方部宿泊割合は、来道経験なし・1回では44.7%であるのに対し、来道回数2-5回では**55.1%**、来道経験6-9回では**53.0%**と、リピーターの方が地方部を訪れる割合が高くなった。
- 一方、来道回数10回以上では、2018年に割合が高かった札幌市に加え、後志地方が高く、道央圏が**61.6%**と再び高くなる。（図13）

【滞在流動分析】

- 札幌市-小樽市、旭川市-美瑛町、富良野市-中富良野町の相互流動が多く、これらの間の相互流動も多い。2018年も同様の傾向がみられ、北海道におけるゴールデンルートと推測される。（図14）
- 旭川市から富良野市にかけては圏域内での流動も多くみられる。加えて、札幌市・小樽市周辺や網走市など他の圏域とのつながりも大きく、北海道全域における観光の軸となっている様子が伺える。
- 洞爺湖町及び登別市に着目すると、洞爺湖町は函館市と、登別市は札幌市と、それぞれ滞在流動が多い。

【利用空港】

- 北海道へ到着する空港(入道空港)、北海道から出発する空港(出道空港)が把握できた外国人ドライブ観光客について、**大部分が新千歳空港を利用していた。**
 ※新千歳空港利用割合（空港利用が把握できた旅行者を対象とした集計）
 入道時:693人中653人(94%)、出道時:576人中544人(94%)

図13.来道回数別 圏域別宿泊割合（2019年）

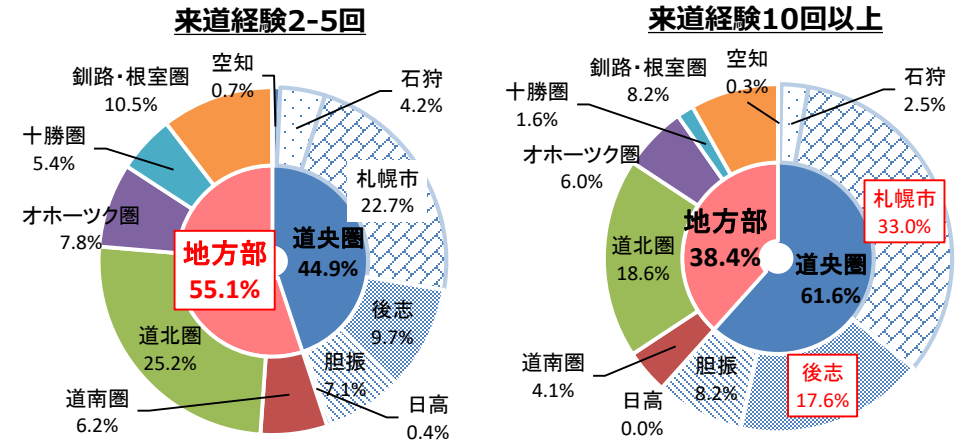


図14.滞在流動分析図（2019年）

